# Ⅷ. 特別勘定に関する指標等

## 1. 特別勘定資産残高の状況

（単位：百万円）

| 区分 | 2021年度末 金額 | 2022年度末 金額 |
|---|---|---|
| 個人変額保険 | 587,821 | 426,407 |
| 個人変額年金保険 | 1,300,184 | 1,143,026 |
| 団体年金保険 | ― | ― |
| 特別勘定計 | 1,888,006 | 1,569,434 |

## 2. 個人変額保険及び個人変額年金保険特別勘定資産の運用の経過

| | |
|---|---|
| 国内株式市場 | 国内株式市場では、日経平均株価は27,000円台でスタートし、一時29,000円台まで上昇しましたが、年度末には28,000円台まで下落しました。<br>年度前半は、急激なドル高円安による輸出関連企業の業績改善期待や、参院選で勝利した岸田政権への期待の高まり等から、日経平均株価は上昇する場面もありましたが、欧米を中心とした世界的な金融引き締めを背景とした景気減速懸念から、下落基調で推移しました。年度後半は、12月に日本銀行（日銀）が金融緩和策を修正したことや円高となったことで株価は軟調な推移となる場面もありましたが、入国規制緩和によるインバウンド需要期待や好調な企業決算、植田日銀新総裁が金融緩和策継続の所信表明をしたこと等から、日経平均株価は上昇しました。 |
| 国内債券市場 | 国内債券市場では、海外金利の上昇を受けて10年国債利回り（長期金利）に上昇圧力がかかったものの、日銀が量的に無制限で国債を買い入れる緩和的な金融政策を継続したことで金利上昇は抑えこまれ、12月までは概ね0.15～0.25％のレンジでの展開が続きました。しかし、日銀が大規模緩和政策を修正し、長期金利の変動許容幅を拡大すると、即座に新たな変動許容幅の上限である0.5％付近まで上昇しました。更なる政策修正への期待から長期金利には上限を超えて上昇する圧力がかかりましたが、1月の金融政策決定会合で政策の現状維持が決定されると、そうした期待は後退し長期金利は低下に転じました。3月にかけては海外で金融システム不安が広がり、長期金利は大きく低下し0.3％台半ばで年度末を迎えました。 |
| 外国株式市場 | 外国株式市場では、主要市場の株式指数はインフレ昂進と金融引き締めにより年度前半は軟調に推移し、後半に持ち直しました。年度前半は、堅調な企業決算、好調な経済指標を受け一時的に上昇する場面もありましたが、10月にかけて下落基調をたどりました。年度後半には景気悪化懸念により利上げペースの鈍化期待が高まるなか株価は反発しました。その後インフレが高止まりし追加利上げ期待が再び高まるなか、米国市場は上昇が一服し、横ばい推移となりました。3月には金融システム不安により一時的に下落する局面もありましたが深刻化には至らず、横ばい圏で年度末を迎えました。一方、欧州では年度前半にロシアのウクライナ侵攻によるエネルギー危機を受けて市場心理が大きく悪化しましたが、年度後半は記録的な暖冬による天然ガス価格の大幅下落等を受けて急回復し、年明け以降も主要指数は上昇を続け前年度末を上回る水準で推移しました。 |
| 外国債券市場 | 外国債券市場では、米欧の10年国債利回り（長期金利）は、インフレ高止まりや海外中銀による積極的な金融引き締めによって年度初から上昇しました。急速な利上げによる景気減速懸念が高まったことで7月にはいったん金利が低下しましたが、8月以降10月頃にかけてはインフレ高止まりにより再び利上げ加速見通しが出てきたことから上昇し、米国長期金利は4.3％を超える水準に達しました。その後は2月頃にかけて、インフレ高止まりによる利上げペース加速への思惑と利上げ効果の浸透による景況感の悪化とがせめぎ合うなか、変動幅を伴いながらも広いレンジ内での推移となりました。3月は米国地銀の経営破綻や欧州大手金融グループの経営危機等による金融システム不安から利上げの停止が意識され米欧の長期金利は低下し、年度末には米国は3％台半ば、独は2％台半ばとなりました。 |
| 外国為替市場 | 外国為替市場では、対主要通貨で円安が大幅に進行し、円の対ドル相場は4月の121円台から10月には152円近辺とおよそ32年ぶりの円安水準となりました。海外中銀が相次いで急速な利上げに舵を切る一方、日銀は大規模な金融緩和を継続し、金利差が急拡大したことが急速な円安進行の理由のひとつとなりました。また、ドルは対主要通貨でも上昇し、ユーロ/ドルはおよそ20年ぶりに1ユーロ=1ドルを下回りました。<br>急速な円安に対して9月・10月にはおよそ24年ぶりの円買い為替介入が実施されました。また日銀による金融引き締め方向の政策修正が意識される中で一転して円高が進み、1月には1ドル=127円台前半まで下落しました。その後も様々なニュースやテーマのもと変動幅の大きい期間が続きましたが、130円台を中心としたレンジを抜けるには至りませんでした。ユーロ/円は134～148円台で推移し、144円台で年度末を迎えました。 |

こうした運用環境のなか、特別勘定は、特別勘定ごとに定められた中長期的に安定した収益の確保を目指した運用方針に基づき運用を行いました。

## 3. 個人変額保険及び個人変額年金保険の状況

### 個人変額保険

(1) 保有契約高

(単位：件、百万円)

| 区分 | 2021年度末 | | 2022年度末 | |
|---|---|---|---|---|
| | 件数 | 金額 | 件数 | 金額 |
| 変額保険(有期型) | — | — | — | — |
| 変額保険(終身型) | 88,819 | 579,960 | 74,159 | 486,453 |
| 合計 | 88,819 | 579,960 | 74,159 | 486,453 |

(2) 年度末個人変額保険特別勘定資産の内訳

(単位：百万円、%)

| 区分 | 2021年度末 | | 2022年度末 | |
|---|---|---|---|---|
| | 金額 | 構成比 | 金額 | 構成比 |
| 現預金・コールローン | 75 | 0.0 | 26 | 0.0 |
| 有価証券 | 587,733 | 100.0 | 426,377 | 100.0 |
| 公社債 | — | — | — | — |
| 株式 | — | — | — | — |
| 外国証券 | — | — | — | — |
| 公社債 | — | — | — | — |
| 株式等 | — | — | — | — |
| その他の証券 | 587,733 | 100.0 | 426,377 | 100.0 |
| 貸付金 | — | — | — | — |
| その他 | 13 | 0.0 | 3 | 0.0 |
| 貸倒引当金 | — | — | — | — |
| 合計 | 587,821 | 100.0 | 426,407 | 100.0 |

(3) 個人変額保険特別勘定の運用収支状況

(単位：百万円)

| 区分 | 2021年度 | 2022年度 |
|---|---|---|
| | 金額 | 金額 |
| 利息配当金等収入 | 13,600 | 37,442 |
| 有価証券売却益 | — | — |
| 有価証券償還益 | — | — |
| 有価証券評価益 | 28,521 | 40 |
| 為替差益 | — | — |
| 金融派生商品収益 | — | — |
| その他の収益 | — | — |
| 有価証券売却損 | 174 | 555 |
| 有価証券償還損 | — | — |
| 有価証券評価損 | 8,974 | 52,555 |
| 為替差損 | — | — |
| 金融派生商品費用 | — | — |
| その他の費用 | — | — |
| 収支差額 | 32,972 | △ 15,628 |

### (4) 個人変額保険特別勘定に関する有価証券等の時価情報

①売買目的有価証券の評価損益

(単位：百万円)

| 区　　分 | 2021年度末 | | 2022年度末 | |
|---|---|---|---|---|
| | 貸借対照表計上額 | 当期の損益に含まれた評価損益 | 貸借対照表計上額 | 当期の損益に含まれた評価損益 |
| 売買目的有価証券 | 587,733 | 19,546 | 426,377 | △ 52,514 |

②金銭の信託の時価情報

該当ありません。

③個人変額保険特別勘定のデリバティブ取引の時価情報（ヘッジ会計適用・非適用分の合算値）

該当ありません。

## 個人変額年金保険

### (1) 保有契約高

(単位：件、百万円)

| 区　　分 | 2021年度末 | | 2022年度末 | |
|---|---|---|---|---|
| | 件数 | 金額 | 件数 | 金額 |
| 個人変額年金保険 | 229,830 | 1,368,156 | 221,742 | 1,205,193 |

### (2) 年度末個人変額年金保険特別勘定資産の内訳

(単位：百万円、%)

| 区　　分 | 2021年度末 | | 2022年度末 | |
|---|---|---|---|---|
| | 金額 | 構成比 | 金額 | 構成比 |
| 現預金・コールローン | 9,650 | 0.7 | 11,643 | 1.0 |
| 有価証券 | 1,289,946 | 99.2 | 1,130,940 | 98.9 |
| 公社債 | — | — | — | — |
| 株式 | — | — | — | — |
| 外国証券 | — | — | — | — |
| 公社債 | — | — | — | — |
| 株式等 | — | — | — | — |
| その他の証券 | 1,289,946 | 99.2 | 1,130,940 | 98.9 |
| 貸付金 | — | — | — | — |
| その他 | 587 | 0.0 | 442 | 0.0 |
| 貸倒引当金 | — | — | — | — |
| 合計 | 1,300,184 | 100.0 | 1,143,026 | 100.0 |

### (3) 個人変額年金保険特別勘定の運用収支状況

(単位：百万円)

| 区分 | 2021年度 金額 | 2022年度 金額 |
|---|---|---|
| 利息配当金等収入 | 67,767 | 54,859 |
| 有価証券売却益 | — | — |
| 有価証券償還益 | — | — |
| 有価証券評価益 | 1,395 | 102 |
| 為替差益 | — | — |
| 金融派生商品収益 | — | — |
| その他の収益 | — | — |
| 有価証券売却損 | 23 | 221 |
| 有価証券償還損 | — | — |
| 有価証券評価損 | 43,871 | 71,812 |
| 為替差損 | — | — |
| 金融派生商品費用 | — | — |
| その他の費用 | — | — |
| 収支差額 | 25,267 | △ 17,072 |

### (4) 個人変額年金保険特別勘定に関する有価証券等の時価情報

①売買目的有価証券の評価損益

(単位：百万円)

| 区分 | 2021年度末 | | 2022年度末 | |
|---|---|---|---|---|
| | 貸借対照表計上額 | 当期の損益に含まれた評価損益 | 貸借対照表計上額 | 当期の損益に含まれた評価損益 |
| 売買目的有価証券 | 1,289,946 | △ 42,475 | 1,130,940 | △ 71,710 |

②金銭の信託の時価情報

該当ありません。

③個人変額年金保険特別勘定のデリバティブ取引の時価情報（ヘッジ会計適用・非適用分の合算値）

該当ありません。

## Ⅸ. 保険会社及びその子会社等の状況

該当ありません。